

4

杏雨書屋蔵書に押された蔵書印(1)
歴代日本医史学会会員

平松 賢二

武田科学振興財団杏雨書屋

公益財団法人武田科学振興財団杏雨書屋には、文書・墨跡類を含め現在4万点を越す蔵書がある。そのうちには作者による落款印、所蔵者による蔵書印・蔵書票などを有するものが少なくない。これらの印跡はその書籍・文書類の成立や、伝来の経緯を示すもので、鑑定の有力な資料となりうる。印文のデザインには工夫が凝らされたものや、あえて難読にしたと思われる一見不可解なものもあり、パズルを解く感を覚えるものすらある。

演者平松は武田科学振興財団杏雨書屋の管理担当を7年近く行い、杏雨書屋退任後は特別研究員として、杏雨書屋所蔵品の印譜作成を手がけている。現在までに7千点近くの書籍の印記につき画像撮影、印文解読、印主情報の調査を行った。

今回はその経過を踏まえ、第一報として日本医史学会の重鎮らの旧蔵を示す蔵書印をとりあげて報告する。

藤浪剛一(こういち)(1879~1942、第4代日本医史学会理事長)の旧蔵書である乾々斎文庫は、昭和19年頃まとまって杏雨書屋に入った。藤浪の印は種類が多く、「乾々斎文庫」、「乾々斎蔵書記」、「藤浪氏蔵」(2種)、「藤浪蔵書」、「藤浪剛一」(5種)、「藤浪」(2種)「K. Fujinami」の印や、「乾々斎書屋」の蔵書票、一族の印に「藤浪萬徳」、「尾張藤浪氏蔵書之印」、「藤浪鑑」等がある。

呉秀三(1865~1932、初代日本医史学会理事長)の蔵書印には「呉氏蔵書之印」、「呉氏文庫」の2印がある。

富士川游(1879~1942、第3代日本医史学会理事長)の蔵書印には「富士川家蔵本」の3種の別印がある。

上記、藤浪・呉・富士川3氏の蔵書印を並捺する書もあり、3氏の交流関係が知られて興味深い。蔵書印の位置からして、呉→富士川→藤浪の手に渡ったとみられる。

久保猪之吉(1874~1939)の旧蔵書には、「クボ」、「久保図書」の印がある。

小川剣三郎(1871~1933)の旧蔵書には、「清節」、「清節文庫」の印がある。

佐伯(さいき)理一郎(1863~1953)の旧蔵書には、「佐伯図書」、「佐伯蔵書」の印があり、「京都産院文庫蔵書」の蔵書票が貼ってある。

阿知波五郎(1904~1983)の旧蔵書には、「阿知波」、「阿知波蔵書」、「阿知波蔵書印」の印がある。

上記の佐伯・阿知波両氏が捺印する産科書もあり、その交流が伺える。

三木栄(1903~1992)の旧蔵書には、「式木」、「式木文庫」、「参樹文庫」、「三木」2種、「三」、「大茶庵」、「朝鮮医学図書」、「朝鮮医学研究図書」の印があり、「三木文庫(大茶庵蔵)」の蔵書票が貼ってある。

大塚敬節(1900~1980)の旧蔵書には「大塚」、「大塚蔵書」、「敬節蔵書」、「大塚敬節」の印があり、「修琴堂蔵書」、「修琴堂文庫」の蔵書票が貼ってある。

杉立義一(1923~2005)の旧蔵書には「桂仙堂文庫」の印がある。

田中祐尾の旧蔵書には「彌性園図書印」の印がある。

松木明知の旧蔵書には「Ex Libris ARION Akitomo Matsuki M.D.」の蔵書票が貼ってある。

小曾戸洋(第11代日本医史学会理事長)の旧蔵書には、「曾氏開萬冊府之記」2種、「小曾戸蔵書画之記」、「小曾戸氏図書之記」、「曾氏蔵印」、「小曾戸洋寶蔵」、「曾氏」、「洋」の印がある。

真柳誠の旧蔵書には、「真氏蔵書」、「真氏百萬巻庵」、「真柳誠図書記」、「真柳」、「真柳誠書」、「誠」の印がある。